

# 「2027 年度に向けた政策・制度要求と提言」の取り組み

## 1. 基本的な考え方

連合は、働くことに最も重要な価値を置き、年齢や性、国籍の違い、障がいの有無などにかかわらず誰もが公正な労働条件の下、多様な働き方を通じて社会に参加でき、社会的・経済的に自立することを軸とし、多様性を受け入れ、互いに認め支え合い、誰ひとり取り残されることのない社会である「働くことを軸とする安心社会」の実現をめざしています。

その実現のためには、安心して働くことができるワークルールとディーセント・ワークの確立、分厚い中間層の復活に向けた適正な分配の実現、全世代支援型社会保障制度の再構築、持続可能で包摂的な社会の実現をはじめ、すべての働く者・生活者のくらしの底上げ・底支えと格差是正、貧困の撲滅などに資する政策の実行が不可欠と考えています。

連合神奈川は、県内の施策実行状況を踏まえ、政策・制度要求と提言の活動と内容の浸透にも努めてきました。

「賃金は上がるもの」という流れを定着させるべく取り組みが進められた 2025 春闘を受け、2026 春闘では、実質賃金の底上げをめざし、特に中・小組合の賃金上昇にこだわった取り組みが展開されました。その結果、全体では3年連続となる5%台の賃上げ、中・小の組合でも前年同時期を上回る回答を引き出し、賃上げの流れが定着してきています。マイナスを続けていた実質賃金も、2026 年に入ってわずかではあるもののプラスに転じています。

一方で労働力不足は深刻さを増し、帝国データバンク「神奈川県・人手不足に対する企業の動向調査」によると、2026 年1月時点の県内企業における正社員の人手不足感は58.1%と高水準で、特に建設業やサービス業で深刻です。しかし、AI活用やデジタル化の進展に伴い、新卒採用を減らしていくという企業も徐々に増えています。人口減少を前提とした産業構造の変化への対応、公務・公共サービスを含めた社会機能や経済活動を維持する手立てを考えなくてはなりません。

世界の緊張が高まる一方、インバウンド需要は高まり続けています。世界とくらしが様々な場面で密接に関係している今日、働き続け、くらし続けることが可能な地域社会を維持していくためには、政治・財政・地方自治等に関心を払い必要な発信を続けていく必要があります。

「2027 年度に向けた政策・制度要求と提言」の取り組みにあたっては、これらの視点を盛り込むとともに、昨年度の重点項目への回答を精査し、産別・団体からの政策要求と提言にも目配りをしながら協議を重ねました。

連合神奈川は、より働きやすい社会、くらしやすい社会、誰ひとり取り残されることのない社会の実現をめざし、2027 年度の自治体予算編成への反映を求め、神奈川で働く者の代表として神奈川県、県内政令3市および労働局に対し要請を行うとともに、協力議員との日常的意見交換を推進し、各種審議会などにおいても積極的に発言・提言を行います。

## 2. 神奈川県 の 状況

### (1) 県内の経済情勢

	前回 (2026年1月)	今回 (2026年4月)	前回比較
個人消費	物価上昇の影響はみられるものの、緩やかに回復している	緩やかに回復している	→
生産活動	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
雇用情勢	持ち直しのテンポが緩やかになっている	持ち直しのテンポが緩やかになっている	→
設備投資	7年度は増加見込みとなっている(全規模・全産業)	7年度は増加見込みとなっている(全規模・全産業)	→
企業収益	7年度は増益見込みとなっている(全規模)	7年度は増益見込みとなっている(全規模)	→
企業の景況感	「上昇」超に転じる(全規模・全産業)	「上昇」超幅が縮小(全規模・全産業)	→
住宅建設	前年を上回っている	前年を上回っている	→
公共事業	前年を上回っている	前年を上回っている	→

[関東財務局 神奈川県 の 経済情勢報告 2026年4月22日発表]

### (2) 雇用情勢

求人倍率の動き	県内における令和8年3月の月間有効求人倍率(季節調整値)は、前月から0.01ポイント下降の0.83倍となった。
求人の動向	県内における令和8年3月の月間有効求人数(原数値)は96,718人、前年同月との比較では4.5%の減となった。また、新規求人数(原数値)は31,430人、前年同月との比較では0.3%の増となった。
求職者の動向	県内における令和8年3月の月間有効求職者数(原数値)は111,155人、前年同月との比較では2.4%の増となった。また、新規求職者数(原数値)は21,340人、前年同月との比較では5.8%の増となった。

[神奈川県労働市場月報(令和8年3月) 2026年4月28日発表]

### (3) 神奈川県 2026年度当初予算(2026年3月25日可決)

一般会計、2兆3,760億円(1,600億円増)、特別会計などを含む総額は4兆8,750億円。

- 子どもが健やかに育つ社会環境を整備するため、子ども・子育て支援の推進を図るほか、県内経済・産業の活性化のため、日産自動車生産縮小等への対応や、宇宙関連産業の振興等に取り組む。
- また、共生社会の実現に向け、地方独立行政法人 神奈川県立福祉機構の設立等に取り組むほか、「災害に強いかながわ」の実現に向け、新たな神奈川県水防災戦略等に基づき、災害対策を推進する。
- さらに、令和9年開催のGREEN×EXPO 2027に向けた取組を着実に進めるとともに、これを契機とした観光振興を推進する。
- こうした取組を進めるに当たり、引き続き、デジタルの力を活用していくことで、県民の抱える不安を解消し、誰もが安心して暮らせるやさしい社会の実現を目指す。

[神奈川県 令和8年度当初予算(案)の概要(令和8年2月9日)]

### 3. 政策委員会の着目点

◇：政策委員会の中での発言抜粋 ◆：関連して着目した報道や資料

#### 【経済・産業】

- ◇ 大企業と中小企業の価格転嫁の格差是正、中小企業支援策の利便性向上が課題。
- ◇ 公共調達においても労務費の価格転嫁を促進するため、公共工事等の入札に限らず物品調達等においても最低価格の見直しなどが進められることが必要。

#### ◆ 中小企業の価格転嫁、神奈川も停滞 客離れ懸念で二の足、中東危機で倒産も

<https://www.kanaloco.jp/news/economy/article-1277540.html>

(有料記事)

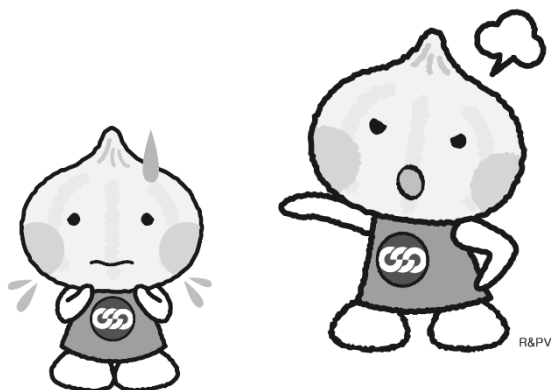


#### 【雇用・労働】

- ◇ カスタマーハラスメントについては、その深刻さや対策の重要性が徐々に認識されてきているが、依然として、被害事案は生じ続けている。さらに、自治体や公共サービスに対しての顧客ハラスメントの認識と対策も急がれる。引き続き、事業者と労働者双方への働きかけを続けることが重要であり、行財政と雇用労働の両面で対策が必要。
- ◇ 横浜市では2025年4月、顧客ハラスメント対策基本方針を策定。市全体770課中、72%（553課）で顧客ハラスメント被害が確認されたことを受け、対応マニュアル策定、研修実施、相談体制整備、ポスターによる意識啓発活動を実施。
- ◇ 外国人労働者をめぐって、雇用労働の観点からは例えば宗教的背景（お祈りの時間や食べ物など）、思想・信条を守りながら働く権利への理解と配慮の課題がある。

#### ◆ 人事院、行政サービス利用者の顧客ハラスメント対策を義務づけ 各府省庁に

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQ0UA156CC0V10C26A4000000/>



## 【福祉・社会保障】

- ◇ 介護分野でも人材確保のため、スキマバイトが導入されている。有資格者だとしても、初めて訪問する施設で指導もなく三大介助（入浴、食事、排泄）を行う。介護は人間関係の構築が重要だが、スキマバイトではそれが困難で、介護現場における事故が増加（入浴介助でのやけど、死亡事故など）する恐れが大きい。
- ◇ 医療・介護現場の処遇改善のためには、根本的には診療報酬を含む公定価格の改定の際に、現下の物価および賃金上昇の状況を正しく反映させることが求められる。また、現状自治体ごとに対応に相違がある制度等は、自治体の財政力によって格差を生じることになるため、自治体から国に対して財政措置を要求するよう求めることも必要ではないか。

### ◆ 介護職の低賃金、改善遠く 全産業平均より7万円安 補助金効果に限界

<https://www.nikkei.com/article/DGKKZ094536210Z10C26A2EP0000/>

(有料記事)



## 【社会インフラ】

- ◇ 埋設配管の維持・補修は、コストも労力もかかるが喫緊の課題。
- ◇ 2027年横浜で開催される国際園芸博覧会（GREEN×EXPO 2027）に向けた総合交通対策の強化、オーバーツーリズム対策など、観光客と日常生活者の移動の調整に課題がある。
- ◇ 指定福祉避難所、福祉避難所についての理解が進んでおらず、実際に開設する際に十分機能するのにかについては大きな懸念がある。



### ◆ みなし福祉避難所 死亡255人 入居の1割超「関連死か検証を」

[https://www.hokkoku.co.jp/articles/-/1773462#goog\\_rewarded](https://www.hokkoku.co.jp/articles/-/1773462#goog_rewarded)

### ◆ 対策必要な「緊急度1」の下水道管 藤沢が9.5キロ、全自治体で最長

<https://www.kanaloco.jp/news/government/article-1266361.html>

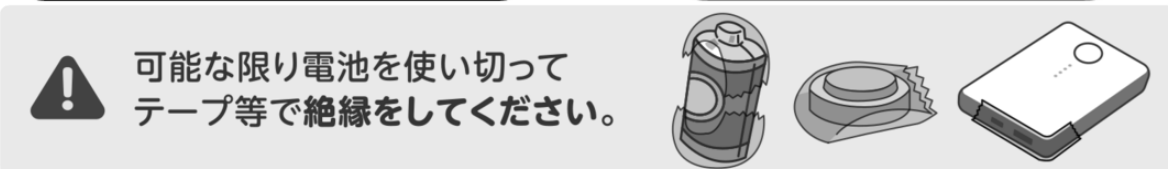
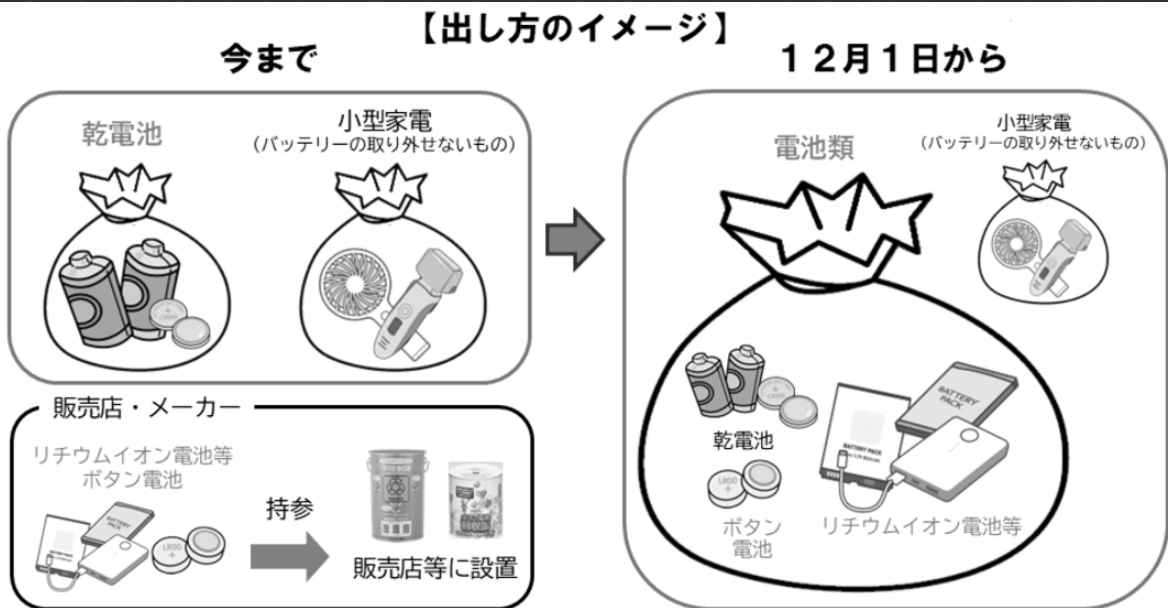
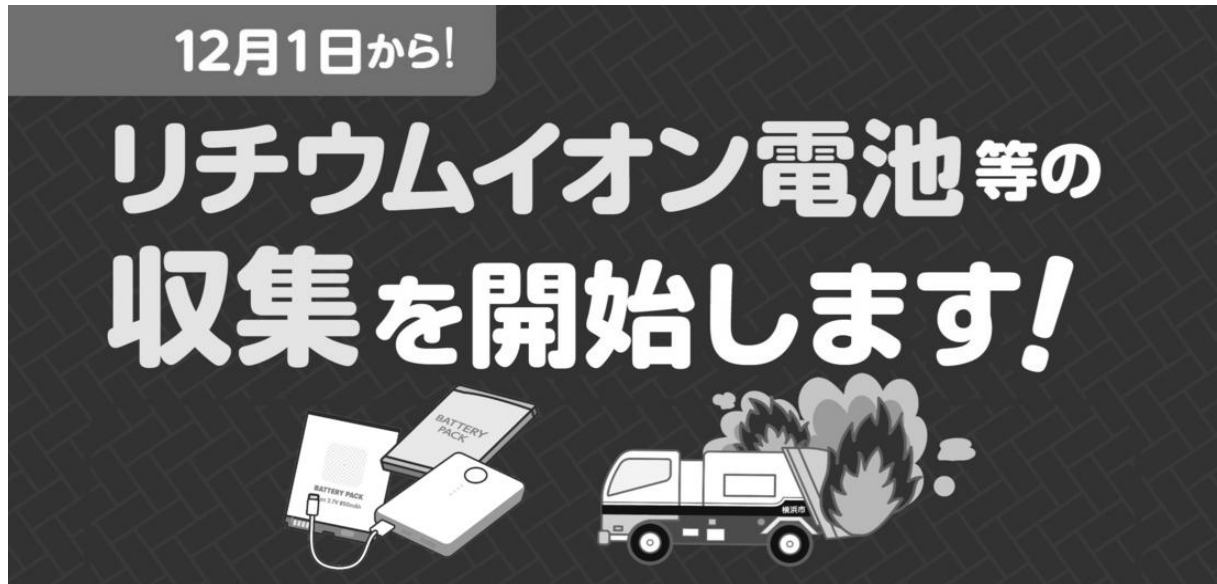
(有料記事)



## 【環境・エネルギー】

◇ 2027年横浜で国際園芸博覧会（GREEN×EXPO 2027）が開幕する。再生可能エネルギー、地産地消、フードロスの削減などを考える契機にしていく必要がある。

◆ リチウムイオン電池等の回収（横浜市の場合 2025年12月～）



○川崎市：2025年11月から「小物金属」として回収

○相模原市：2026年10月から廃棄物分別区分を変更し集積所での回収を開始

## 【教育・人権・平和】

- ◇ 教員確保が引き続き難しい。さらに高等学校授業料無償化の影響で公立高校への進学希望者が減っている、影響を注視していく必要がある。
- ◇ 拉致問題・基地問題への対応については、気運醸成とともに訴え続けていくことが重要。
- ◇ ヘイトスピーチ対策については、選挙運動などと連動して県内に広がってきている。県としての条例制定を求めるとともに、県下統一の要求として取り組んでもいいのではないか。
- ◇ 外国に繋がる子どもたちが、教員になりたいという夢を持ったときに、川崎と東京は教員としての採用があるが、横浜と県はいわゆる常勤講師としてしか採用していない。

### ◆ 神奈川の高校入試、私立推薦の志願者急増

授業料無償化で公立からシフトか

<https://www.kanaloco.jp/news/social/article-1263320.html>

(有料記事)



### ◆ 公立校の教員不足深刻、昨年4月時点の欠員 4317 人に… 4年前の1.7倍に増加

<https://www.yomiuri.co.jp/kyoiku/kyoiku/news/20260305-GYT1T00351>



### ◆ 藤沢市が差別解消条例を検討へ 「共に生きる社会」市長が強調

<https://www.kanaloco.jp/news/government/article-1251742.html>

(有料記事)



## 【行財政】

- ◇ 投票率向上のためには、議会の役割や暮らしとの関わりについて学習する機会が必要。学校教育終了後に「暮らしと社会」「社会の仕組み」などについて、学ぶ仕組みがあるとよいのではないか。
- ◇ 暮らしに関わる様々な制度を、自治体の財政力による人口獲得競争としないため、国による制度設計と財政出動を求めていくことが必要。

### ◆ 投票所での電子投票、導入のメリットは

神奈川県選管が自治体向けの体験会

<https://www.kanaloco.jp/news/government/article-1275607.html>

(有料記事)



## 【ジェンダー平等】

- ◇ 様々な統計情報についてジェンダー情報が不足しており、十分に活用が進まない。ジェンダー統計の意義の再認識と活用を進めるよう求める。
- ◇ 依然として、男性が育児休業を取得しにくい状況がある。社会的な慣習や意識を変えて、男性が育児参加しやすい環境を整備する。
- ◇ 同時に、男性の育児うつへの理解促進やケアなどの対策も進めていく必要がある。

### ◆ 横浜市神奈川区 地域のわ通信 No. 93 (2025 (R7) 年 11 月)

【地域のわ通信】神奈川区内の地域活動を紹介します 発行 ▶ 神奈川区区政推進課 地域力推進担当 411-7026

地域活動を応援する  
地域のわ通信  
R7年11月  
NO.93

過去の「地域のわ通信」はこちらをご覧ください。

**パパたちの子育てを応援したい！  
地域の新たなつながりを生む  
「パパの赤ちゃん学級」**

なかなか地域とのつながりを作りづらいパパたちが出会い、育児の悩みを共有し、ちょっとした生活の知恵も学べる場が「パパの赤ちゃん学級」。活動開始から1年、少しずつ参加者が増え、地域のパパたちの交流が広がっています。今回は代表の平原亜紀子さんに、活動の背景や思い、これまでのエピソード、そして今後の展望について伺いました。



写真(中央)：パパと笑顔で交流する平原さん

「パパの赤ちゃん学級」はどんな活動ですか？

地域づくり大学校<sup>(\*)</sup>の卒業生を中心に、助産師や地域の仲間など7名で「パパの赤ちゃん学級」を立ち上げました。2024年に、パパの赤ちゃん学級実行委員会(以下、実行委員会)をつくり、その年の6月から活動をはじめました。神北地区の町内会館やケアプラザなどを会場に、年3回程度で開催しています。実行委員メンバーが専門知識や経験をシェアする「知恵袋コーナー」を設け、育児や生活に役立つ情報を学べます。さらに、フリータイムではパパ同士が自由に交流し、気軽に話せる時間を大切にしています。

(\*) 神奈川区地域づくり大学校  
地域の新たなつながりを創り出し、実現したい活動をカタチにしていこうと連携講座。

「この町って案外イね!と感じてほしい」

民生委員として活動する中で、子育てに積極的なパパたちが、悩みを話したり、同世代と出会う場が地域にはほとんどないことに気づきました。パパたちが気軽に集まり、学び、語り合える場をつくりたい。そんな思いで始めました。この活動を通して、パパたちが住む町をもっと好きになり、家族ぐるみで地域と関わるきっかけになれば—それが私たちの願いです。活動を始めるにあたっては、地域づくり大学校卒業生の取組みを支援する「かながわ地域支援補助金」を活用しました。

声を聞かせて! 「共通点があるから、自然につながれる」

印象に残っているのは、初めて会ったパパ同士が、赤ちゃんの月齢や育児の悩みをきっかけに自然と会話を始め、「うちもそうなんです!」と共通点を見つけて、すぐに打ち解けていく姿がとても印象的でした。この学級には、掲示板を見て参加された方や、奥さんの紹介で来られたパパも多くいます。実は、パパだけでなくママも一緒に参加されることもあります。子育て世代が地域に関心がないわけではなく、ただその「きっかけ」が見つけないだけなのかもしれません。

今後の展望とパパたちへのメッセージを!

まずは、「毎日、育児おつかれさまです」と伝えてください。仕事に育児に、忙しい毎日の中で、赤ちゃんとの向き合う時間を大切にしているパパたち、本当にすごいと思います。今後は、参加してくださったパパたちの声をもっと聞き、今、何に困っていて、どんなことを知りたいのか—そんなリアルな声を活動に活かしていきたいです。いつか、参加したパパ自身がこの学級の「サポーター」として、次のパパたちを応援する側になってくれたら嬉しいですね。

10月は「白楽丘の上保健室カフェ」コラボ開催

助産師さんを講師に「パパとママの心から」についての紙芝居とカードを使って学んでいる様子

パパたちの交流タイム

Chikiryoku Up!

【パパの赤ちゃん学級】次回予告!

会場	横浜市六角橋地域ケアプラザ *最新の予定は「パパの赤ちゃん学級」Instagram： <a href="https://www.instagram.com/papaakagaku/">https://www.instagram.com/papaakagaku/</a> をご確認ください
活動日	令和8年2月7日(土)午前中
内容	かんたん離乳食! 1品クッキング(予定が定変更になる場合があります)
参加費	材料費として100円を予定
お問合せ	■パパの赤ちゃん学級実行委員会 <a href="mailto:papaakagaku@gmail.com">papaakagaku@gmail.com</a>